

演出家・俳優養成セミナー2011

演劇大学 in こおりやま

Engekidaigaku in KÔRIYAMA
2011.11/3 (木・祝) → 6 (日)

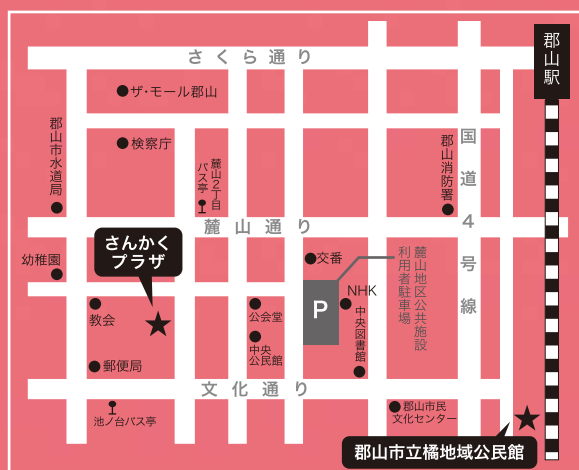
文化庁委託事業「平成23年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」
企画制作：演劇大学 in こおりやま実行委員会 / 日本演出者協会
共催：郡山市 / 郡山市教育委員会 / 郡山市民文化センター (財団法人郡山市文化・学び振興公社)

ついに開催！

日本演出者協会が文化庁の支援を受け、全国各地で開催している「演劇大学」をついに郡山市で開催することになりました。福島県では初の開催です。日本の第一線で活躍する演出家を迎え、「演劇」の楽しさを体感するとともに、地域演劇の広がりを図ることをめざします。「なぜ今 演劇？」「なぜ今 郡山？」という声もあるでしょう。3月11日の震災は、いまだ福島を先の見えない混沌の中に置いています。郡山もその中核都市として多くの避難している方々との共生、目に見えない放射能への対応…と、大きな課題の中にあります。しかし、その中で日々生きていく私達は、あの日以来、自分を生かすもの、支えるものが何であるかということを考えるようになりました。家族の存在、故郷の自然、仕事…中でも人と人を繋ぐ「ことば」の重さ、心を「表現」する事の大切さに誰もが気づいたのです。

今だから、今こそは、この郡山の地で「演劇」のセミナーを開催する大きな意味があります。講座も、体と心を開放し、人と関わり表現することが楽しくなるようなものを企画しました。地域演劇の活動を続けてきた演劇者達には、震災以来、発表の場を失い、気持ちも萎えてしまった者達も、ますます表現活動に邁進する者達も、「芝居」作りの講座を。演劇とは全く無縁であったというシニア世代の人達には、新たな「表現」の場を。外に出ることもままならず、のびのびと体を動かすことのできない子供たちには、思い切り表現遊びのできるワークショップを。最終日には、受講者による発表会やシンポジウムも行います。「演劇」が人を元気にする現場に、ぜひ皆さんご一緒にしましょう！

実行委員長 青木淑子



セミナー会場

郡山市男女共同参画センター 「さんかくプラザ」

バス(「コスモス循環」(池ノ台)、その他各地ノ台経由路線)、池ノ台停留所下車徒歩1分/JR 郡山駅から徒歩20分
福島県郡山市麓山二丁目9番1号
TEL: 024-924-0900

郡山市立橋地域公民館

JR 郡山駅から徒歩10分
福島県郡山市本町一丁目20-18
TEL: 024-923-9930

講師**講座順



神田陽司

早稲田大学卒業後、情報誌「シテイロード」入社。演劇担当のち副編集長。その間に二代目神田山陽の講談に出会い、退社して入門。以後、山陽の弟子として正当派の講談を学ぶ。講談独自の「修羅場」を含む本格的古典によって鍛え上げられた歯切れのいい口調を駆使して、レポート講談、新作講談「(阪神大震災)」講談ビル・ゲイツ」「はやぶさの奇跡」など」も数多く発表している。また「坂本龍馬シリーズ」の創作を続けている。日本講談協会理事。



宮田慶子

1957年生まれ、東京都出身。80年、劇団青年座に入団。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。新国立劇場演劇芸術監督、社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。主な受賞歴に、第29回伊国屋演劇賞個人賞、98年芸術選奨文部大臣新人賞、第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞など。



野崎美子

福島県郡山市出身。舞台芸術学院、劇団青年座付属養成所卒業後、劇団東演入団。1996年、文化庁在外研修員として、英国とロシアに留学。その後、ロシアに移住。モスクワ芸術座付属演劇学校マスタークラス卒業。ユーゴザバト劇場客員俳優となる2006年に帰国し、アクティングトレーナー、舞台演出家として活動。2011年8月、福島県で開催された全国高等学校総合文化祭開会式の構成劇を演出した。日本演出者協会会員、神田外語大学演劇塾講師、劇団若草講師。



流山見祥

演出家・俳優。小劇場運動のリーダーとして40年以上にわたって疾走中。演出作品は、250本を超える。1984年流山見★事務所設立。アングラ劇からブロードウェイミュージカル「ユリタウン」まで国内外で上演、国際的評価を得る。シニア演劇運動の実践家・運動家でもある。代表作に「狂人教育」「オールドパンチ」「ハイライフ」「盤三五大切」など。2009年第44回伊国屋演劇賞団体賞受賞。映画出演に「ミンボーの女」、声優として「るるに剣心」など。日本演出者協会副理事長・日本劇団協議会理事。



青井陽治

1948年生。69年に演技部研究生として劇団四季に入団、「アプロース」「ジューザス・クライスト・スーパースター」「ウエストサイド物語」などの初演に出演する。同時に翻訳、訳詞・劇作を始める。76年よりフリー。以降、海外戯曲やミュージカルの上演に独自の世界を築く。一方、新鮮な感覚で新派の名作を再創造。近年は、次代を担う演劇人育成のために、演劇教育にも積極的に携わり、自身のワークショップの他、東京芸術大学で教えている。日本演出者協会理事。



藤井びん

福島県郡山市出身。下北沢スズナリ・本多劇場柿落し公演に参加。蜷川幸雄「リチャード三世」「エレンディラ」串田和美「西の国の人気者」など。他にも和田喜夫・坂洋二・鴻上尚史・鄭義信・松本修・白井晃・鎌下辰男等々の演出作品に参加。最近では若手の作品にも積極的に参加活動している。12月16日～25日下北沢スズナリにてパラダイス一座「オールド・パンチ」(男たちの挽歌完結篇)作/山元清多・佃典彦、演出/流山見祥に出演。



鹿目由紀

1976年福島県会津若松市生まれ。劇団あおきりみかん主宰。南山大学文学部卒。名古屋在住。2011年、日本劇作家協会東海支部プロデューサーの短編芝居コンペ「劇王」でタイトルを防衛し、前人未踏の四連覇を達成。2009年、2010年、若手演出家コンクール優秀賞を連続受賞。2010年、第16回日本劇作家協会新人戯曲賞最優秀賞を受賞。芸術創造賞、愛知県文化選奨など受賞歴多数。NHK「中学生日記」等のテレビドラマ、ラジオドラマの脚本執筆など、幅広く活動。